

## 南部ブロック 街中史蹟巡り

実施：2023年10月31日

案内：川瀬建雄、河野成夫

・10:00 スタート

### ① 太宰治文学碑

著書「人間失格」で有名な太宰治は、昭和10年7月から1年3ヵ月転地療養のため旧五日市町に転居し、多くのエピソードを残しました。その時の作品「ダス・ゲマイネ」は彼の心境を表しております。後の作品「十五年間」に「船橋町の家が最も愛着が深かった。玄関の夾竹桃も庭の青桐も僕が植えたのだ」と述懐しています。

### ② 浄勝寺

明応5年(1496)芝増上寺の末寺で、浄土宗念仏道場として開山された寺院で、後に家康から10石の寺領を賜り、数寺の塔頭・末寺を有していました。境内には、「お女郎地蔵」や、墓地には寺子屋の師を尊ぶ「筆子塚」、戊辰戦争の後半殉死した「尾張磅礴隊士の墓」などがあります。

### ③ 不動院

永徳年間(1381-84)に創建された真言宗豊山派の寺院で、市内最古の六地藏や六観音念仏塔、幕末の仏師松本良山や地元出身の力士荒馬吉五郎の墓などがあります。門前には、津波で死亡した漁師の供養のため延享3年(1746)に建立された大仏(釈迦如来)があり、その後浦安猫実村との三番瀬漁場争いで牢死した2人の漁師惣代を悼み大仏に飯粒を盛り付け供養する「大仏追善供養」が毎年2月に行われています。

### ④ 覚王寺

市内では、宮本・西福寺と並び真言宗豊山派市域の本寺格の寺院です。境内には、嘉永3年(1850)豊漁祈願のため地元九日市の大工棟梁が建立された難陀竜王堂があります。この社の仙人・千女が描かれた彫刻は、江戸の卓抜した絵師「松田乙次郎、藤原一元」によるものです。総檜造、形式は、一間社流造。

### ⑤ 圓蔵院

当寺は永禄元年(1558)覚王寺の末寺として創建され、本尊は、不動明王です。南側墓地には、約6尺の地蔵(因果/えんが地蔵)があり、この地蔵は、檀家の娘さんが盗賊に殺害され、その供養のため建立されたものですが、漁師たちの祈願場所になっており、今なお線香の煙が絶えません。

## ⑥ 御蔵稻荷神社

家康の東金方面の鷹狩の目的で建てられた船橋御殿の跡地に、飢饉に穀物を備えた旧九日市の郷蔵です。祭神は、宇賀魂の神（穀物神）で、旧本町五丁目の鎮守です。隣の公園は、昭和 33 年まで船橋市役所があったところです。

## ⑦ 東照宮

享保 5 年（1720）船橋御殿跡地に大神宮宮司富氏が建立、東照大権現（家康）、秀忠を祀る日本一小さい東照宮です。

## ⑧ 巖島神社

海運、海の安全を司る宗像三女神を祀る旧本町四丁目の鎮守です。江戸期に御成街道（東金街道）南向きに。地元では祈願の効果からか「いぼとり弁天」と言われています。

## ⑨ 森田呉服店

創業は安政年間（1854-60）、現建物は、明治 5 年建立。今は、呉服のほか手ぬぐい、ポーチなども販売しています。店主は、本町通り商店街振興組合の理事長です。向かいの廣瀬直船堂（大正 7 年築）は「景観重要建造物」3 号に指定。

## ⑩ 道祖神社

山口横丁のムラ境に建立された、旧本町三丁目の鎮守です。境内には、狛犬が狼の三峰神社のほか、愛染明王、馬頭観音などが祀られています。

## ⑪ 猿田彦神社

道案内の神であり庚申講の主尊である「猿田彦大神」を祭神とする旧本町二丁目の鎮守です。庚申の日にここで夜通し会食する習わしなどもあったのでしょうか。

## ⑫ 稻荷神社

旧本町一丁目の鎮守で、境内には、明治 30 年に建てられた船橋第五代目町長「川奈部慶之助」の句碑「降りもせぬ曇りを花の盛りかな」があります。

## ⑬ 西向地藏

江戸期の処刑場の跡地で、地元さんや村（海神下組）の建立した「延命地藏」が祀られています。ここは、東金御成街道の西の起点であり、成田参詣の船橋宿の西の入口でもあります。